

第 20 回 MBI（マルチメディアを基礎にした教育）研究発表会プログラム

日 時：平成 29 年 10 月 28 日（土）13：00～15：50
場 所：総合教育研究棟 2F 8211 講義室

開会の辞

13：00～13：10 明治薬科大学 学長 石井 啓太郎

座長：池田 玲子

1. 演題1 アカデミアにおける研究情報管理電子化のすすめ ～研究倫理とリテラシー力向上のための電子実験ノート～

13：10～14：10 ラボコンサルテーション株式会社 島本 哲男

要 旨

製薬企業探索研究部門では電子実験ノート（ELN）の活用が定着しつつあるが、それ以外の業界ではその存在すら知られていないことが多い。

本講演では、研究倫理やリテラシー力向上の観点からの研究情報管理の重要性と電子化を進める必然性を述べる。さらに創薬化学の現場における ELN や機器データ管理の運用事例を通してその組織や研究者個人へのメリットを紹介し、最近の各種ツールの特徴や展開分野ごとへの可能性にも言及する。

2. 演題2 学部及び大学院における化学構造式描画ソフト ChemDraw の活用

14：10～14：35 明治薬科大学 薬品物理化学 野地 匡裕

要 旨

明治薬科大学では、化学構造式描画ソフトの ChemDraw を導入しており、学生及び教員が各自の PC にインストールする形で利用可能である。ChemDraw は化学構造式の作成以外にも様々な機能を有し、化学系の卒業研究、大学院での研究、学会発表、論文作成、講義資料の準備などに幅広く利用されている。本発表では、ChemDraw に加え、立体構造を作成する Chem3D などの利用方法などについても紹介する。

<< 休憩 14：35～14：45 >>

座長：石橋 芳雄

| | |
|---|--|
| 3. 演題3 タンパク質構造ビューワーEdu-PYMOLのためのチュートリアルビデオの作成と利用 | |
| 14:45~15:10 | 明治薬科大学 基礎科学部門/生物化学 東 恭一郎 |
| 要 旨 | 薬の作用を正しく理解するうえで、タンパク質の構造を理解することが重要である。明治薬科大学では、学生のノート PC に PYMOL をインストールしてあるが、実際に PYMOL を利用できるようにするためには、ソフトウェアに習熟する必要がある。そこで、生化学の講義に連動させて、タンパク質の二次構造の理解を目的とした自習用のビデオを作成し、ビデオ視聴と学生自身による PYMOL ソフトを用いた自宅演習を行ったので、紹介する。 |
| 4. 演題4 企業講演 | |
| 15:10~15:20 | 株式会社パーキンエルマージャパン |
| 15:20~15:30 | 丸善雄松堂株式会社 |
| 15:30~15:40 | 株式会社富士通マーケティング |
| 講 評 | |
| 15:40~15:50 | 教務委員長 池田 玲子 |

<< **情報交換会 16:00~17:30** >>

総合教育研究棟フロネシス 2Fラウンジ